

主なご意見等と区の考え方、対応（令和6年度 第2回生野区区政会議 まちの未来部会）

意見交換のテーマ（区として特にご意見やアドバイスをいただきたいこと）	
令和7年度生野区の取組（案）について 「生野区グローバルタウン物語」プロジェクトについて	
ご意見・アドバイス等	委員名
YouTuberのジョー氏が広告塔として、生野の顔となってくれたのは、すごい素敵なことだと思う一方、YouTubeチャンネル「ジョーブログ」のターゲット層以外の人たちに対してのアプローチも考えないといけないのかなと思う。 生野区のようにグローバルなまちはないので、もうちょっと奇抜というか、おもしろい取組ができればいいかなと思う。関東の人が泊まりに来た際、文化住宅や長屋がこれだけ多いまちは結構珍しいというような話もあったので、古民家や長屋など、まとまった地域で改修などができたらおもしろいかなと思う。	廣川委員
外国人のための飲食店の支援や教育について、集客まで考えてできるといい。せっかくお店を開業しても、集客に苦労しており、すぐ潰れることが多い。10年持つ店は1割ってぐらいなので、継続的に続けるために、集客まで支援することを考えながら、このグローバルタウン物語を考えていけばいいのかなと思う。	塚本委員
外国人の方との共生について、なかなか普段から関わりを持つことができないが、お互いを理解するためには、交流できるような場があったらいいんじゃないかなと思う。ものづくりと飲食店に重点が置かれているが、もっと言葉がちゃんと理解できるようになったり、高齢化が進んでいるので、外国人の方も介護のスキルなど身につけられたら、お互いに将来的にいいのではないかなと思う。	島本委員
地域内で、空き家を購入して日本語学校をスタートさせた事業者がいるが、改築ができておらず許認可が下りていない状況で大勢の生徒を住まわせている状況。学生を住まわせ、日本語の教育を行い、人材として企業に派遣をする流れのようだ。改築に関しては、アスベストの問題や消防法の問題もあるので、地域としては事業者にちゃんとしてほしいということで、事業者あて質問書を出したり、住民説明会を行うように依頼したが、話にならない。生野区が多文化共生に力を入れているまちであるため、一緒にやっていけたらいいなと思ったが、非常に困っている。	須郷委員
いくのパークの万国夜市にしても、結局キッチンカーが他所から来て、他所の人が儲けて帰っていく。地元の人間は一切儲からない。また大阪コリアタウンにしても、17時以降も営業すればもっと儲かるし、まちも活性すると思うが、大阪コリアタウン自体が動かない。観光客も多く、一番儲かる場所であるにも関わらず、やらないというのが現状。	平島委員

主なご意見等と区の考え方、対応（令和6年度 第2回生野区区政会議 まちの未来部会）

ご意見・アドバイス等	委員名
人の流れが大阪コリアタウンに集中してしまっているが、違う場所にも作っていただろうと理想的だなと思いつつながら空き家を再生している。 また、海外の人たちは、ビザの関係だったり、特定の職に就くしかないような感じ。アーティストビザで入国してきた人がいるが、やはりその業種でしか働けないようだ。その職が合わなかった場合、それ以外の選択肢がない、受け入れ先がないという形になってしまうのが心配である。	廣川委員
大阪コリアタウンはある意味もう出来上がっていると思っている。若い女性客が多く訪れているイメージがあり、夜に営業しても本当に人が来るのかなという思いがある。 ほかにも目を向けて、いろんな魅力を作っていく。多文化だけでなく、アートだとか、音楽だとか、いろいろ文化イベントみたいなのをやって、若い人に来てもらうということをやって、考えてみたらいいのではないかな。	塚本委員
人の流れというのは私も大事だと思うので、もう少し実態を把握したほうがいいのではないかな。外国の人は、生野区内の飲食店や銭湯などを利用しているのか、民泊を利用されている方はどこら辺でお金を落とされているのか、実態を掴んで、その流れで、お店などを関連づけていくといいと思う。	島本委員
大阪コリアタウンが繁盛するのはいいことだが、大阪コリアタウン以外のところが栄えるような政策も一つあってもいいのかなと思う。生野区の地図を見たときに、中心は大池橋なので、そこにつながるような何か政策があればいいと思う。	西村委員 (オブザーバー)
外国の人がどんどん増えてきている、外国の人も課題を抱えている。その課題に寄り添いつつ、このグローバルタウンにどうやったらなっていけるのか。 また、学力が及ばない子どもに一体どうアプローチしていいのか、日本語がわからないネパールの子にどうアプローチしていいのか、分からないという状態のまま、悶々としている。 さまざまな課題に寄り添いつつ、分断が進んでいる状況をどう止めていけるのか。どうすればグローバルタウンになっていけるのか。自分たちが多少おせっかいながらも、この状況を変えていくときに必要なのは、話し合い続けるということかなと思う。	山納委員

主なご意見等と区の考え方、対応（令和6年度 第2回生野区区政会議 まちの未来部会）

その他の主なご意見・ご質問等		委員名	区の考え方、対応	担当課
こどもの学力について	学校再編によりできた大阪初の9年制の義務教育学校である生野未来学園だが、令和6年度全国学力学習状況調査の報告があったとき、国語と算数の成績が低くて驚いた。素晴らしい学校を作ることとスタートしたはずが、一体どうしてこういう状態なのか。残念でならない。また、開校以来、工事がずっと続いていることも気になっている。工事が学力の低下の原因だとは言わないが、静養な環境の中で勉強できないというのは、気も散るし、嫌だと思う。 何が原因なのか、何が問題なのか、ちゃんとあぶり出して、よりよい教育をして、1年でも早く素晴らしい学校にしてほしい。	須郷委員	生野区では、今般、西部地域において学校再編の取組を進めてきておりますが、再編後の学校につきましては、この間、教育委員会や学校と連携しながら学校に配置される教員について通常の学校より多く配置し、授業を行うにあたり小中の先生方の間でも連携して、中学校教員が小学校の授業に参画するなど、再編後の学校の子どもの教育環境が充実したものとなるよう取組んできているところです。 また、学力向上に向けた取組としましては、教育委員会におきまして学力向上支援チーム事業として元校長や指導主事が学校を訪問し、教員の授業力向上のための指導、それから課題のある子どもの指導に係る支援など、各学校の状況に応じて行っているほか、生野区におきましても、各学校の指導上のニーズに合わせて各種の検定をご活用いただく学び支援事業を実施し、再編後の学校にも積極的にご活用いただくとともに、子どもの学習習慣の定着や基礎学力の向上を図るため、民間事業者を活用して放課後に課外授業を行う「いくの塾」事業などにも取組んでいるところです。生野区としましては、子どもの学力向上について、すぐに目に見えるような形で急激に伸ばすということは難しいところもございますものの、引き続き区内の各学校、とりわけ再編後の学校につきまして、学校や教育委員会とも相談を重ねながら着実に取組んでまいりたいと考えております。 （令和6年12月20日開催のこどもの未来部会において説明）	地域まちづくり課
	大池小の学力も、大阪市内に比べたらだいぶ低い。分かっていない子を、そのまま中学校にあげると、さらに分からなくなってつまづく。小学校の時点で、補習するなど、何か対策をしてしていかないといけない。学校側に例えば毎日一コマだけでもいいから作ってほしいと、そのあとは地域で教えることのできる人材を探したり、必要であればお金を出して講師を雇うと提案したが、学校側は前向きではない。	平島委員		